

## 第5学年 国語科学習指導案

指導者 古屋 伸浩

- 1 単元名 来て、見て、住んでね、山陽小野田～PRリーフレットをつくろう～  
教材名 天気を予想する

## 2 単元について

本学級の児童は、4年時の説明文の学習で、事実と考えを読み分け、段落どうしの関係を考えたり、写真や図表等を文章と対応させながら読んだりする経験を積んできている。また、5年時の学習では、「新聞を読もう」や「見立てる」等の学習で、新聞記事の編集の仕方や記事の書き方に目を向けたり、文章の書かれ方や文章構成に着目して要旨をとらえたりしている。さらに、昨年度の3学期より、始業前に行っている15分間のモジュール学習の時間に、表現力の育成を目的とした「モジュール作文」を全校で行っている。これにより、決められた時間内に正確に視写をすることや、接続詞を正しく選択した短文づくりなどができるようになってきた。しかし、振り返りの作文では、めあてに対応した自己評価を書く児童はまだ半数程度で、「モジュール作文」の成果が教科の振り返りの書き方に結びついていない点は課題である。

本単元は、教材文「天気を予想する」で学習したことを活用して、山陽小野田市の住みやすさをPRするリーフレットをつくることを目的としている。人口減少は、本市に限らず多くの自治体の課題であり、ホームページやパンフレット等で移住促進のためのPR活動を行っている。児童が郷土のPRを行うためには、印象的な写真や説得力のあるグラフやコメントが必要である。本教材文では、三つの問いや答えにより筆者の主張を分かりやすく伝える構成や、図表等の非連続型テキストの効果について学習することができる。そこで、リーフレットづくりを単元を貫く言語活動として設定し、教材文で学習したことをすぐに活用する「入れ子方式」を導入した学習活動を設定することとした。

指導にあたっては、以下の点に配慮したい。

- PRリーフレットづくりにおいて、効果的に伝えるという目的意識をもたせることで、教材文から構成の工夫を主体的に読み取らせたい。
- 教材文や資料にある図表等が、どのような意図により掲載されているのかを理解させることによって、リーフレットに必要な図表等を適切に選択するための視点をもたせたい。
- 「フリートーク」やグループによる話し合い活動を取り入れることにより、互いの考えの違いを大事にしながら多くの考えを関係付けるような討論をさせたい。
- 始業前のモジュール学習の時間に、2つのグラフを読み取る学習を4回分取り入れることにより、授業時間の充実と学習内容の定着に努めたい。
- 振り返りの文章が、めあてに対する学び合いの成果を自覚できるものになるように、条件に沿って書くようにさせたい。

### 3 単元目標

「天気を予想する」で学習したことを活用して、山陽小野田市PRリーフレットをつくることを通して、自分の考えが伝わるように書くことができる。

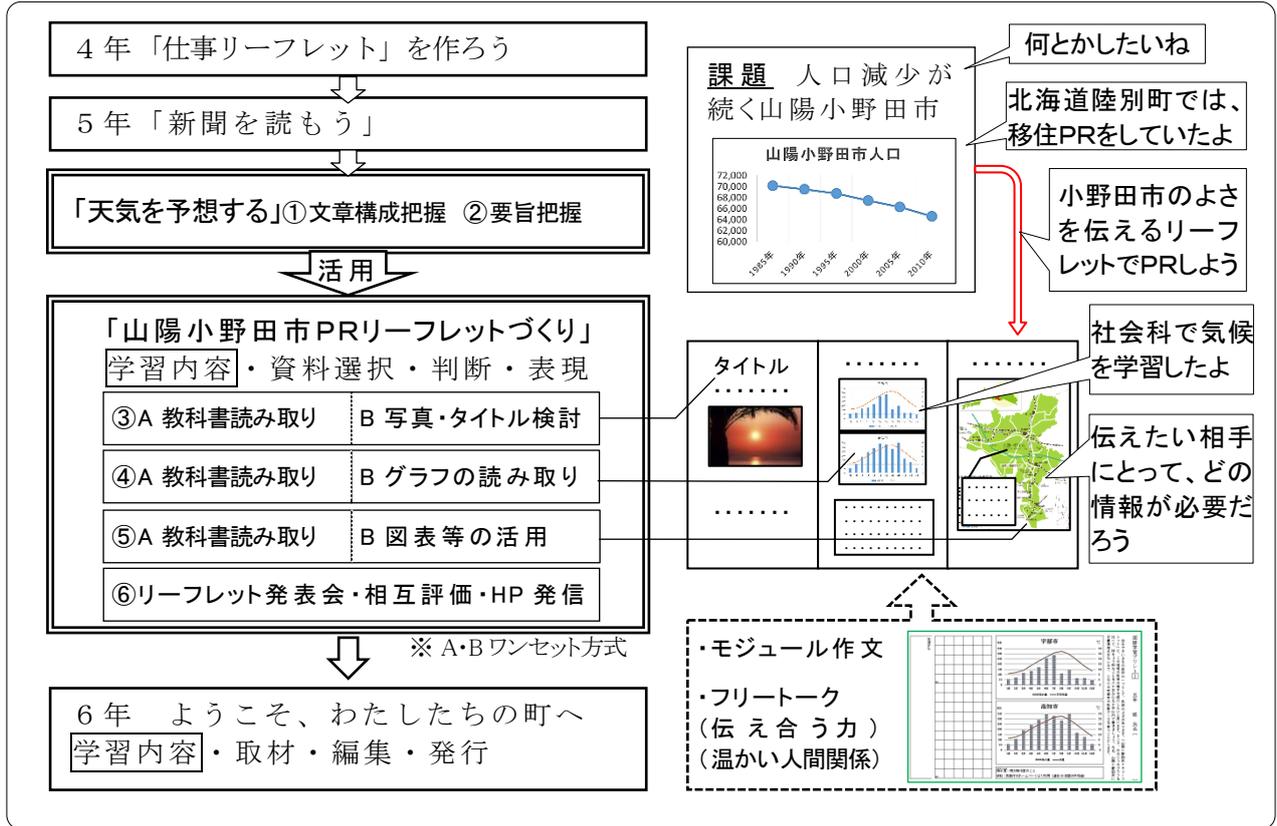
### 4 評価規準

関心・意欲・態度	書く力	知識・理解・技能
・山陽小野田市のよさを人に伝えたいという願いをもち、友達と協力しながら課題を解決していこうとしている。	・リーフレットづくりの中で、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書いている。	・主張と根拠を表す語句同士の関係を理解して使っている。

### 5 指導計画（全6時間 本時4/6）

次	時間	学習活動・内容	教師の支援
一	1	学習課題を立てるとともに、教材文の概要をつかみ、感想を書くことができる。	市の課題から自分達の学習課題を立てることにより、今後の学習の見通しをもたせる。
	2	教材文の三つの問いと答えの関連を考え、筆者が伝えたいことにせまる。	ワークシートやグループ学習により、教材文の構造や要旨をとらえさせる。
二 (本時)	3	A教材文の写真と本文を対応して読み、その効果を理解する。	教材文の写真と観光ポスターとを比較させることにより、目的の違いについて考えさせる。
		Bリーフレットにふさわしい写真を選び、タイトルや説明文を書く。	市のよさを伝える複数の写真を準備し、ふさわしいキャッチフレーズを考えさせる。
	4	A教材文にグラフがあることで読む人に分かりやすく伝わることを理解する。	グラフがある文章とない文章を比較させることで、グラフの効果を理解させる。
		Bリーフレットに掲載するグラフについて話し合い、紹介文を書く。	気候のよさをPRするためのグラフを選択させるとともに、教材文の構成を参考にした紹介文を書かせる。
	5	A教材文の筆者の主張と掲載している図表の意味を考える。	教材文の図表を整理することで、筆者の主張との関連について考えさせる。
		B伝える相手に応じた情報を選択して、リーフレットを完成させる。	複数の図表の中から、自分達のグループが伝えたい情報を選択させる。
三	6	各グループで作成したリーフレットを紹介し合い、相互評価する。	完成したリーフレットを相互評価させ、学校ホームページに掲載する。

## 6 単元構想図（○数字は時間）



## 7 活用資料（モジュールの時間に行った事前学習）

国語学習プリント ① 五年 組氏名

住みやすいまちの条件の一つとして、気候のよさも必要です。山陽小野田市PRリーフレットに、この地域の気候の様子を紹介したいと考えています。そこで、次のグラフを比べて、特長や気候のよさを紹介したいところを記入してください。また、次のグラフから、お住まいの地域（市町村）の気候の様子を調べて、お住まいの地域の気候の様子を説明してください。

山陽小野田市・宇部市	高知県 高知市
------------	---------

資料：気象庁のホームページより引用（過去30年間の平均値）  
 山陽小野田市には、観測地点がないので宇部市のデータを利用

国語学習プリント ② 五年 組氏名

住みやすいまちの条件の一つとして、気候のよさも必要です。山陽小野田市PRリーフレットに、この地域の気候の様子を紹介したいと考えています。そこで、次のグラフを比べて、特長や気候のよさを紹介したいところを記入してください。また、次のグラフから、お住まいの地域（市町村）の気候の様子を調べて、お住まいの地域の気候の様子を説明してください。

山陽小野田市・宇部市	新潟県 高田市
------------	---------

資料：気象庁のホームページより引用（過去30年間の平均値）  
 山陽小野田市には、観測地点がないので宇部市のデータを利用

国語学習プリント ③ 五年 組氏名

住みやすいまちの条件の一つとして、気候のよさも必要です。山陽小野田市PRリーフレットに、この地域の気候の様子を紹介したいと考えています。そこで、次のグラフを比べて、特長や気候のよさを紹介したいところを記入してください。また、次のグラフから、お住まいの地域（市町村）の気候の様子を調べて、お住まいの地域の気候の様子を説明してください。

山陽小野田市・宇部市	北海道 帯広市
------------	---------

資料：気象庁のホームページより引用（過去30年間の平均値）  
 山陽小野田市には、観測地点がないので宇部市のデータを利用

国語学習プリント ④ 五年 組氏名

住みやすいまちの条件の一つとして、気候のよさも必要です。山陽小野田市PRリーフレットに、この地域の気候の様子を紹介したいと考えています。そこで、次のグラフを比べて、特長や気候のよさを紹介したいところを記入してください。また、次のグラフから、お住まいの地域（市町村）の気候の様子を調べて、お住まいの地域の気候の様子を説明してください。

山陽小野田市・宇部市	沖縄県 那覇市
------------	---------

資料：気象庁のホームページより引用（過去30年間の平均値）  
 山陽小野田市には、観測地点がないので宇部市のデータを利用

## 8 本時案（4 / 6 時間）

- (1) ねらい 教材文「天気を予想する」の構成の工夫やグラフを効果的に用いて、互いの考えを出し合いながら、リーフレットに載せる紹介文を書くことができる。
- (2) 準備物 気象グラフ（学習プリント）、実物投影機、プロジェクタ
- (3) 学習過程

学習活動・学習内容	教師の働きかけ
1 教材文にある降水量グラフの効果について話し合う。 ・降水量の変化や全体的な傾向	T 教材文にグラフがなかったら、どのように感じますか。 ○ グラフのある文章と無い文章とを比較して、その違いを発表させることで、グラフを提示することの意味をとらえさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             気候のよさをアピールするグラフを選んで、紹介文を書こう。           </div>	
2 リーフレットに掲載するグラフを選び、その理由を話し合う。 ・自分の考えの意図 ・友達との共通点や相違点	T リーフレットに取り上げるグラフはどれがよいかを考えましょう。 ○ 自分の考えをプリントに書かせ、フリートーク形式で話し合わせる。
3 「天気を予想する」の二つ目の課題を参考に、山陽小野田市の気候のよさを伝える紹介文を書く。 ・グラフの選択 ・計画的な話し合い	T 教材文で学習した問いと答え、そしてその根拠を使って、気候のよさを伝える紹介文を書きましょう。 ○ フリートークで出し合った意見を参考に、グループごとにグラフを選択して書かせる。 ○ 司会者は、話し合いが活性化するように、同じ児童だけが発言することのないように配慮させる。
4 グループでまとめた紹介文を発表する。 ・適切な資料の選択 ・自分達の考えとの比較	T 自分達でまとめたことと比べながら、他のグループの紹介文を聞き合ひましょう。 ○ 自分達の考えと比較して聞くように助言することで、振り返りの感想をもつことができるようにする。
5 条件に沿って、本時の学習の振り返りをプリントに書く。	T 今日の学習の振り返りを、グラフと友達の発言を入れて、90字以上、100字以内で書きましょう。 ○ グラフのよさに加えて、グループや、全体での話し合いの過程についても感想をもたせる。

## 9 評価

教材文で学習したことを生かして、山陽小野田市PRリーフレットに掲載するグラフを適切に選択し、紹介文を書くことができたか。

1 主眼

- 教材文「天気を予想する」を活用することによって、リーフレットにも効果的なグラフを選択するとともに、気候のよさを伝える紹介文を書くことができる。

2 指導上の留意点

- ① グラフを選択する理由についてフリートーク形式で話し合わせる。ことにより、適切に話したり聞いたりする力や、学び合う力を高めさせる。
- ② 教材文の構成をリーフレットの紹介文に取り入れることにより、印象的で説得力のある文をグループで考えさせる。

評価

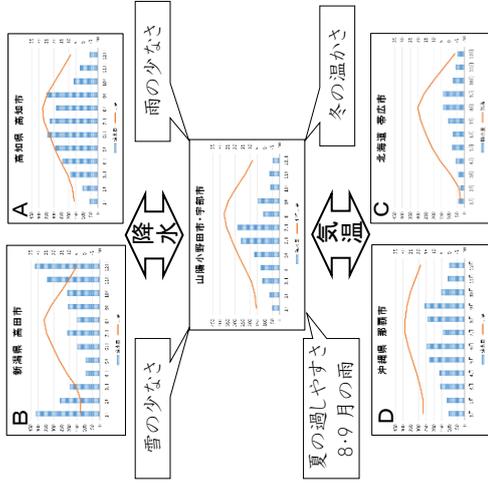
- 教材文で学習したことを生かして山陽小野田市PRリーフレットに掲載するグラフを適切に選択し、紹介文を書くことができたか。

ふり返りを書こう 条件：グラフ・友達の発言

問い	
答え	
根拠	

問 天気予報は百パーセントの中ずらくなるのでしょうか。  
 答 それはかなりおもしろいことです。  
 根拠1 実際の天気の変化は予測できません。  
 根拠2 局地的な天気の変化も予測が難しいものです。

「天気を予想する」の二つ目の問いと答えを参考に紹介文を書こう。



学 気候のよさをアピールするグラフを選んで、紹介文を書こう

10/10 来て、見て、住んでね、山陽小野田  
 (山陽小野田市PRリーフレットをつくろう)

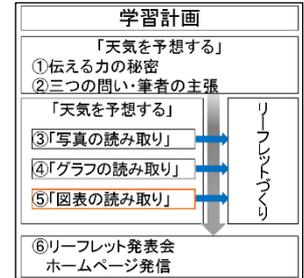
本時の流れ

- ① 「天気を予想する」の132ページにあるグラフの効果について話し合う。  
 ◆ グラフがある文章と無い文章とを比較してその違いを発表させる。【個】
- ② リーフレットに掲載するグラフを選び、その理由を話し合う。  
 ◆ 自分の考えをプリントに書かせ、フリートーク形式で話し合わせる。【個】・【全体】
- ③ 「天気を予想する」の二つ目の課題を参考に、気候のよさを伝える紹介文を書く。  
 ◆ 問いと答えは全員で考え、根拠については前半の話し合いを参考に紹介文を考えさせる。【グループ】
- ④ グループでまとめた紹介文を発表する。  
 ◆ 文末は教材文を参考にさせる。また、曖昧な表現にならないよう数値を意識させる。
- ⑤ 条件にそつた本時のふり返りをプリントに書く。(グラフ・友達の発言を入れる)

## 10 授業の実際

授業の導入では、雨量のグラフが掲載されている教科書の教材文をプロジェクタでスクリーンに提示した後で、グラフの部分を隠し、グラフがないことをどう感じるかと尋ねた。児童は、「グラフがないとどれぐらいの差があるか分からない」、「年による変化がつかみにくい」などと発言し、グラフの効果である、読む人への伝わりやすさを実感することができた。

そして、本時のめあて「気候のよさをアピールするグラフを選んで、紹介文を書こう」を提示した。ここで、単元全体の流れが分かる学習計画を示すことにより、本時の学習がどこに位置し、今後、どうつながっていくのかといった見通しをもたせることができた。



最初の学習活動は、山陽小野田市の気候と比較するグラフを各自が選択し、その理由を書くことであった。選択肢はA高知、B新潟、C北海道、D沖縄の4つ、いずれの地域も気温と降水量が特徴的であり、どこを取り上げたとしても山陽小野田市の気候の優位性を示すことができると考えたからである。児童は、グラフを読み取りながら自分なりの理由をワークシートに書いていった。児童が4つのグラフを見るのはこの時間が初めてではなく、朝のモジュール学習の時間に、「モジュール作文」として特徴を捉える活動を行っていた。そのため、読み取りにはそれほど時間がかからなかった。

次に、グループで山陽小野田市の気候のよさをPRする紹介文を書く学習活動を行った。「天気を予想する」の教材が、筆者の問いに対する答えという構成で成り立っており、それを参考に「問いと答え」という関係の紹介文の書き方を協働的な作業で行っていった。問いをどのようなものにするかを考えさせたところ、児童の一人が提案した、「山陽小野田市の気候は、極端な差がないのでしょうか」に決めた。この後、各グループで選択した一つの地域と比較する紹介文を考えていった。教科書には、「1976年から、平均して年に160回以上あることが分かります。」と記述してあるので、その文体を参考に、グラフから読み取ったことを「・・・から分かります。」と書くように伝えた。

約10分間のグループ活動の後、数グループの発表を聞いた。(以下は一つのグループの発表である)

「僕達を選んだ市は帯広市で、ここは気温も降水量も低くて、気温は氷点下5度を下回る月が12月、1月、2月と3か月続いていて、降水量も150mmより少ないから、水不足になりやすいので、それと比べると山陽小野田市は気温も降水量も年間を通じて極端な差がないというのが分かる」と発言を行った。(実際には降水量が少なくても水不足の可能性は低いとのことであるが、この時間では言及しなかった)

最後は、90字以上100字以内の条件で振り返りを書いて授業を終えた。



## 11 考察

### (1) 単元を貫く言語活動について

今回の学習は、教科書教材で学習したことを活用して山陽小野田市の紹介リーフレットを作成するという、単元を貫く言語活動を設定した。従来の学習方法では、教材文を学習した後で作品づくりを行うことが多かったのであるが、教材文の読み取りと作品づくりを並行して行うことで、常にゴールを意識した言語活動を展開することができた。児童がグループで協力して作成した山陽小野田市PRリーフレットは、教科書教材や日常的に行っているモジュール作文を総合的に活用することにより完成させることができた。



### (2) 公開授業について

公開授業当日は、体育館で長机に座り、マイクロホンを使っての学習であったため、通常の授業と異なる雰囲気児童が緊張して発言者が限られてしまった。2学期から導入したフリートークの経験を生かしたテンポよく活発に発言できることを目指してはいたが、子ども同士の意見が繋がる場面が限られてしまったことは残念であった。また、児童が提案した問いが「極端な差」という言葉であったため、読み取りの視点が限定されたことも反省点である。しかし、グループ活動では、真剣に意見を交換する姿があり、何とか条件に合う紹介文を考えようとした点は評価できると考える。

### (3) 授業評価について

参観者のアンケートから、「モジュール作文で書く力が身に付いている」、「モジュール作文やフリートークが授業の中でしっかりと生かされている。日頃の積み重ねの大切さや、資料などを活用していく力を育てていくことの重要性を感じた」と評価していただいた。一方で、中学校教員からは、「中学校では、進路を前に低学力に悩む現実がある。国語は正しい文法、語彙力を付けて、教科書を読解できることが大切、小学校の先生との大きな見解の差を感じた」という意見もあった。今回の実践に関して、基礎・基本の定着に対して懸念を抱かれたことについては、真摯に受け止め、改善の視点としたい。

### (4) 今後の課題について

国語科の学習において、活用する力を高めるために、単元を貫く言語活動を設定し、実践できたことは大変有意義な経験であった。ただ、限られた時間数で学習を展開する必要があるため、教材文の一語一句にこだわりながら読み取るような学習よりも、一時間の授業で身に付けさせたいことは何かをこれまで以上に精選し、効率よく授業を展開することが大切であると実感した。今後は、児童一人ひとりの学力を保障するための個別の支援、基礎・基本の充実、そのための授業評価の方法を確立し、さらなる学力向上に努めたいと考える。